

2014年1月31日 全5頁

## Indicators Update

# 12月鉱工業生産

幅広い業種で上昇、駆け込み需要に向け先行きも大幅な増産計画

経済調査部  
エコノミスト 橋本政彦

### [要約]

- 2013年12月の生産指数は、前月比+1.1%と2ヶ月ぶりの上昇となった。市場コンセンサス（同+1.3%）をわずかに下回ったものの、生産の増加基調が続いていることを確認させる内容であった。出荷指数も同+0.6%と2ヶ月ぶりの上昇となり、在庫指数は同▲0.4%と5ヶ月連続で低下となった。
- 12月の生産を業種別に見ると、全15業種中、13業種が前月から上昇しており、幅広い業種での生産の増加が見られた。なかでも、はん用・生産用・業務用機械工業、金属製品工業、電子部品・デバイス工業による寄与が大きかった。これらの業種では前月時点の製造工業生産予測調査で増産を見込んでいたため、概ね想定通りの内容。
- 製造工業生産予測調査では、2014年1月の生産計画は前月比+6.1%、2014年2月は同+0.3%と、非常に高い伸びを見込んでいる。はん用・生産用・業務用機械工業などでは、予測修正率、実現率ともにマイナスでの推移が続いていることから、強気の生産計画に関しては、一定程度割り引いて見る必要がある。しかし、輸送機械工業や情報通信機械工業などの大幅な増産計画は、増税前の駆け込み需要を見据えた動きとみられ、強気の生産計画の実現性は高いとみている。

### 鉱工業生産の概況（季節調整済み前月比、%）

	2013年										
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
鉱工業生産	0.1	0.9	1.9	▲3.1	3.4	▲0.9	1.3	1.0	▲0.1	1.1	
コンセンサス										1.3	
DIR予想										0.7	
生産者出荷	▲0.8	▲1.4	1.0	▲3.2	2.0	▲0.1	1.5	2.3	0.0	0.6	
生産者在庫	▲0.7	0.8	▲0.4	0.0	1.6	▲0.2	▲0.2	▲0.3	▲1.8	▲0.4	
生産者在庫率	2.3	▲5.1	▲2.1	5.9	▲0.5	1.8	▲2.1	▲3.7	▲1.2	0.1	

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 経済産業省、Bloombergより大和総研作成

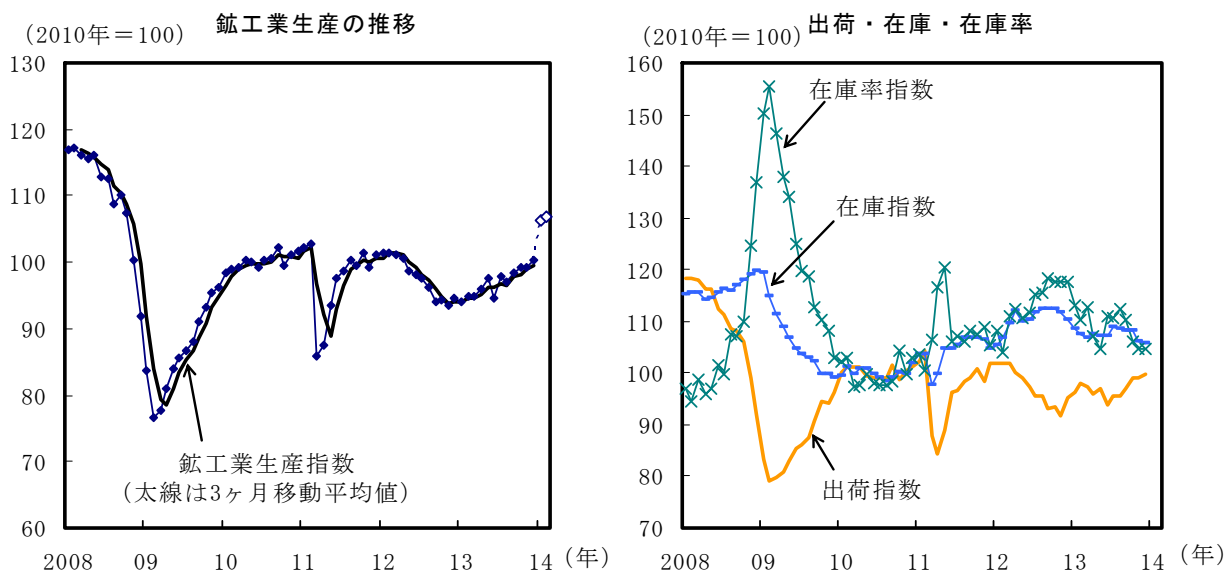
大和証券グループ 株式会社大和総研 丸の内オフィス 〒100-6756 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号 グラントウキョウノースタワー

このレポートは投資勧誘を意図して提供するものではありません。このレポートの掲載情報は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された意見や予測等は作成時点のものであり今後予告なく変更されることがあります。大和総研の親会社である大和総研ホールディングスと大和証券は、大和証券グループ本社を親会社とする大和証券グループの会社です。内容に関する一切の権利は大和総研にあります。無断での複製・転載・転送等をご遠慮ください。

## 12月の生産指数は2ヶ月ぶりの上昇

2013年12月の生産指数は、前月比+1.1%と2ヶ月ぶりの上昇となった。市場コンセンサス(同+1.3%)をわずかに下回ったものの、生産の増加基調が続いていることを確認させる内容であった。出荷指数も同+0.6%と2ヶ月ぶりの上昇となり、在庫指数は同▲0.4%と5ヶ月連続で低下となった。

### 生産・出荷・在庫・在庫率の推移



(注) 鉱工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

## 幅広い業種で生産が増加

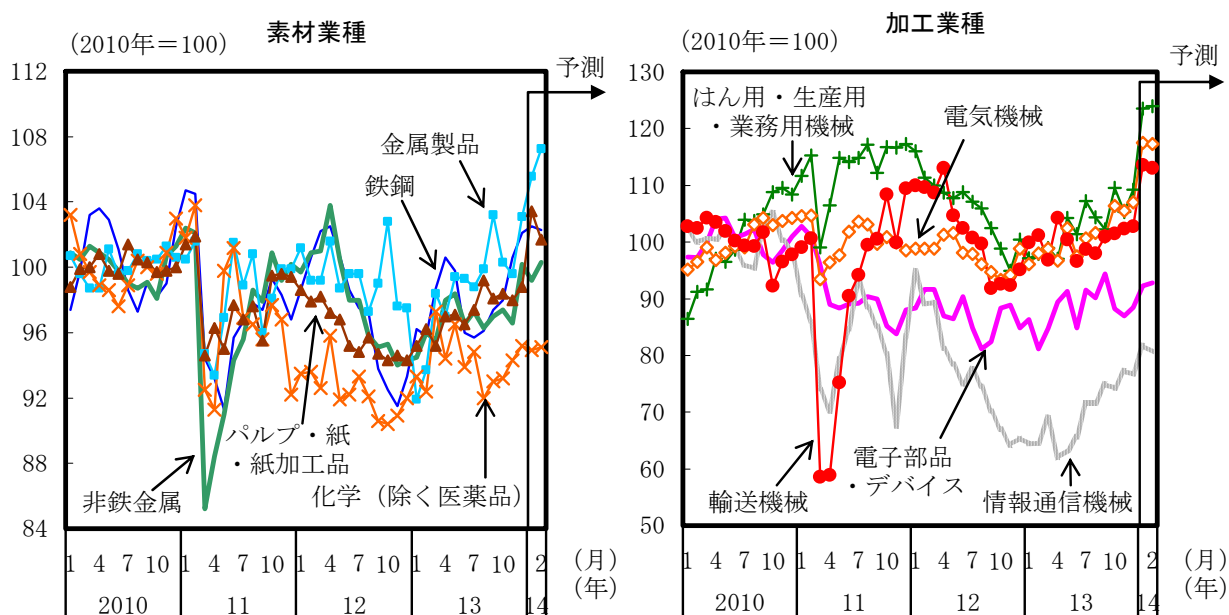
12月の生産を業種別に見ると、全15業種中、13業種が前月から上昇しており、幅広い業種での生産の増加が見られた。なかでも、はん用・生産用・業務用機械工業、金属製品工業、電子部品・デバイス工業による寄与が大きかった。これらの業種では前月時点の製造工業生産予測調査で増産を見込んでいたため、概ね想定通りの内容。

はん用・生産用・業務用機械工業は、前月比+3.7%と2ヶ月ぶりに増加した。なかでも米国向けの「数値制御ロボット」や、インドネシア、タイ向け「機械プレス」など、輸出向け生産設備用資本財の増加が生産を押し上げた模様。金属製品工業は、前月比+3.5%と3ヶ月ぶりの増加となった。公共投資の増加によって「橋りょう」の生産が増加したことに加え、堅調な建設需要を背景に「鉄骨」が増加したことが押し上げ要因となった。電子部品・デバイス工業は、スマートフォン・タブレット端末向けの「アクティブ型液晶素子(中・小型)」が増加したことを主因に、前月比+1.7%と3ヶ月ぶりの増加となった。

## 製造工業生産予測調査では、非常に高い伸びを見込む

製造工業生産予測調査では、2014年1月の生産計画は前月比+6.1%、2014年2月は同+0.3%と、非常に高い伸びを見込んでいる。業種別に見ると、2014年1月については、非鉄金属工業、化学工業を除く全業種で生産の増加を見込んでおり、総じて強気の計画となっている。特に、はん用・生産用・業務用機械工業（前月比+13.1%）、輸送機械工業（同+10.5%）、電気機械工業（同+9.8%）、情報通信機械工業（同+6.6%）など、加工組立業種では高い伸びを見込んでいる。一方、2014年2月については、鉄鋼業、電気機械工業、情報通信機械工業などで減少が見込まれているが、いずれの業種も1月の増加幅に比べると2月の減少幅は小幅に留まっており、均せば生産の増加基調が続く見通し。はん用・生産用・業務用機械工業などでは、予測修正率、実現率ともにマイナスでの推移が続いていることから、強気な生産計画に関しては、一定程度割り引いて見る必要がある。しかし、輸送機械工業や情報通信機械工業などの大幅な増産計画は、増税前の駆け込み需要を見据えた動きとみられ、強気な生産計画の実現性は高いとみている。

### 主要業種の生産推移



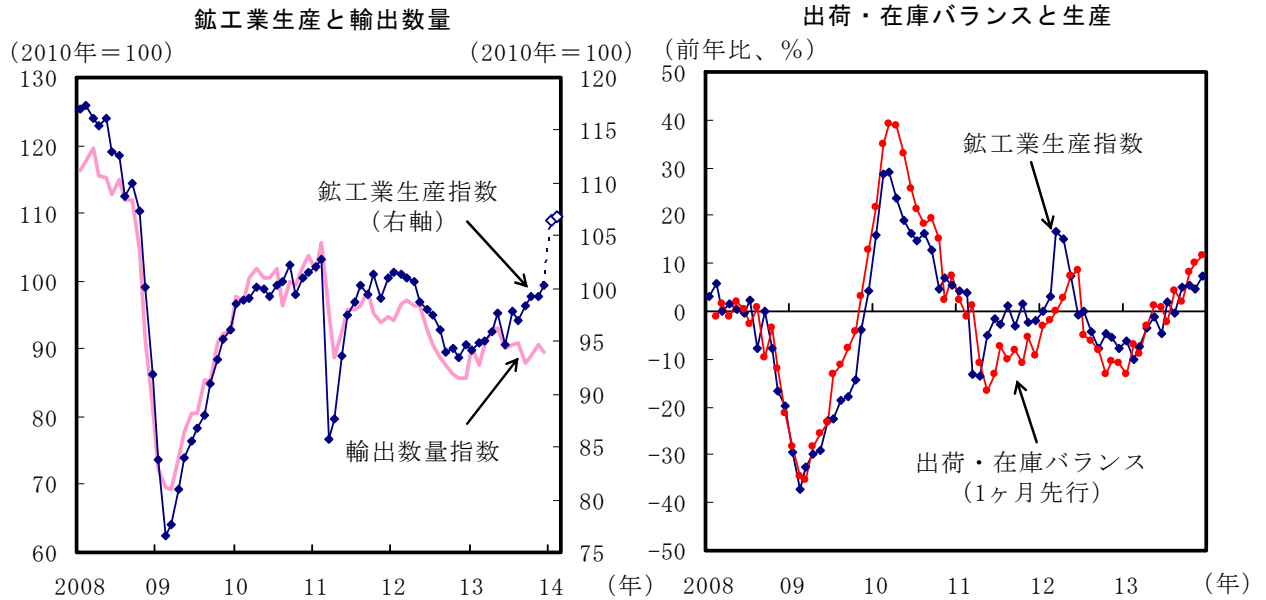
(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。  
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

## 年度末に向けては内需の加速が生産を牽引

先行きに関して、生産は今後も増加基調が続くと見込んでいる。2014年4月の消費税増税に向けて、既に耐久財の一部では駆け込み需要が顕在化しているが、年度末にかけて駆け込み需要が本格化することで、個人消費は加速する公算が大きい。また、公共投資は引き続き高水準で推移するとみられること、設備投資についても企業収益の改善を主因に持ち直しつつあることから、内需の増加が年度内は生産を牽引する見込み。輸出についても、これまでのところ改善は緩慢なものに留まっているものの、円安の効果や米国を中心とした海外の景気拡大によっ

て増勢を強めると見込んでいる。増税後は、駆け込みの反動減によって内需が落ち込む可能性が高いことから、一旦は生産も減速する見込みだが、輸出の増加に支えられて増加基調が続くと考えている。

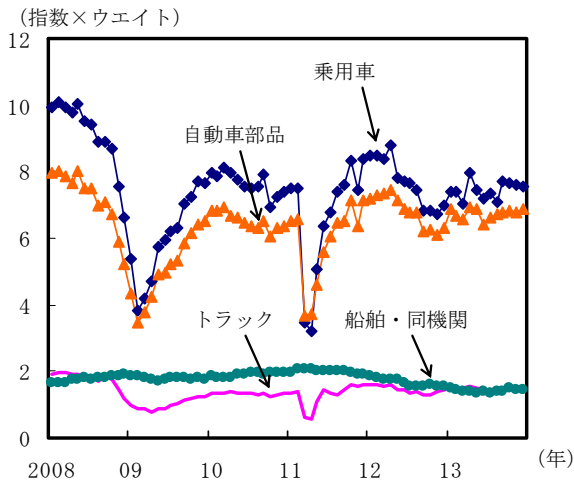
### 輸出数量、出荷・在庫バランスと生産



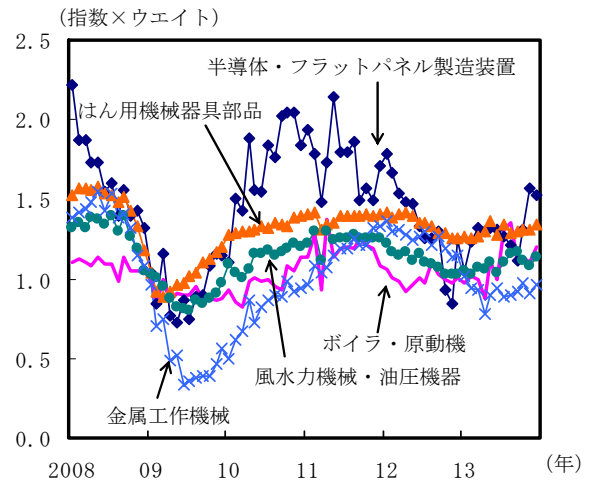
(注) 鋁工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。  
(出所) 内閣府、経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

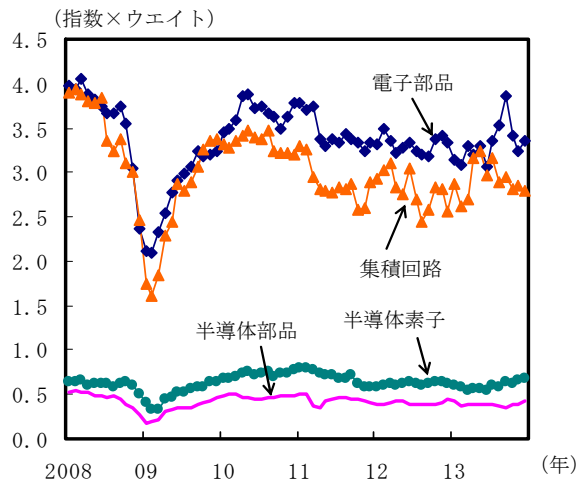
輸送用機械



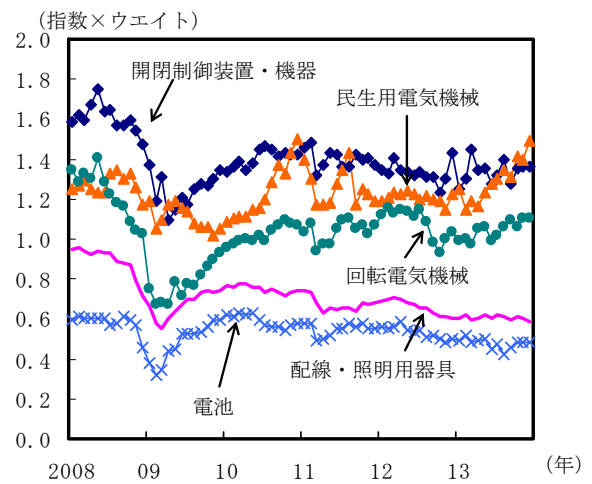
はん用・生産用・業務用機械



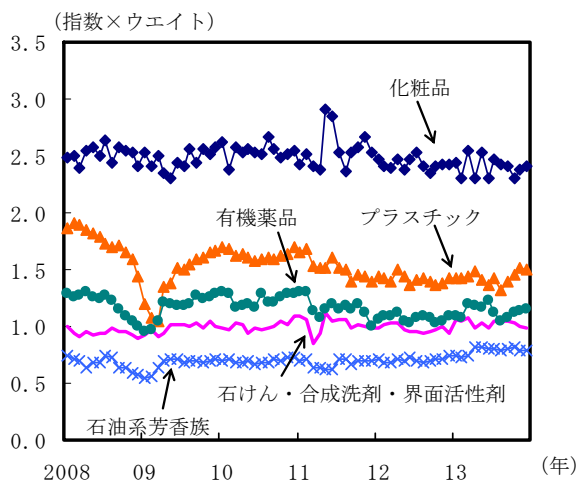
電子部品・デバイス



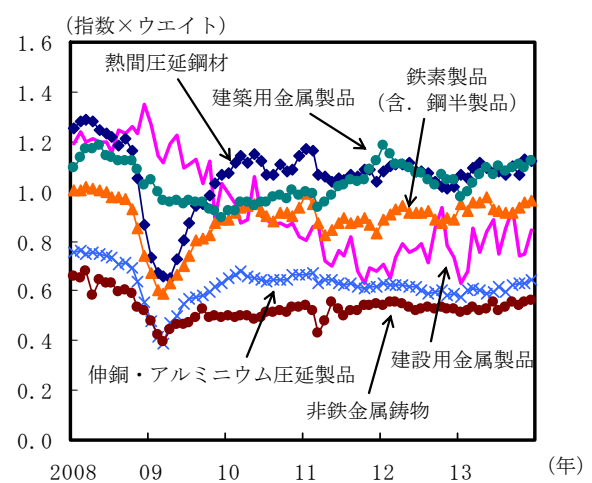
電気機械



化学



鉄鋼・非鉄金属・金属製品



(出所) 経済産業省統計より大和総研作成